

★5回『(仮称)釜ヶ崎夜間学校』

今日のテーマ『結核はどんな時にかかるか?』

一人でも多くの仲間に参加を!

釜ヶ崎の働く仲間のみなさんよ

今晚7時より「喜望の家」での回りの

「(仮称)釜ヶ崎夜間学校」を開きます。

前回は「労災を考える」というテーマで、

集まった15人の仲間と体験談をまじえた

熱心な話し合いになりましたが、今日の

テーマは、病気の中から「結核はどんな

時にかかるか?」としました。これは、

10人に一人が結核患者といわれ、全国一

の患者数をかかえるここ釜ヶ崎の結核を

根本的に退治するにはどうしたらいいか

を、仲間のみんなとともに考えたいから

にほかなりません。

ところで、結核菌を吸い込み、体の中

に入ることを感染といいますが、この状

態では発病とはいいません。逆にいえば、

ほとんどの人が保菌者(菌が体の中にあ

る人)であり、肺のどこかに小さな病巣

となつて結核菌は生きています。しかし、

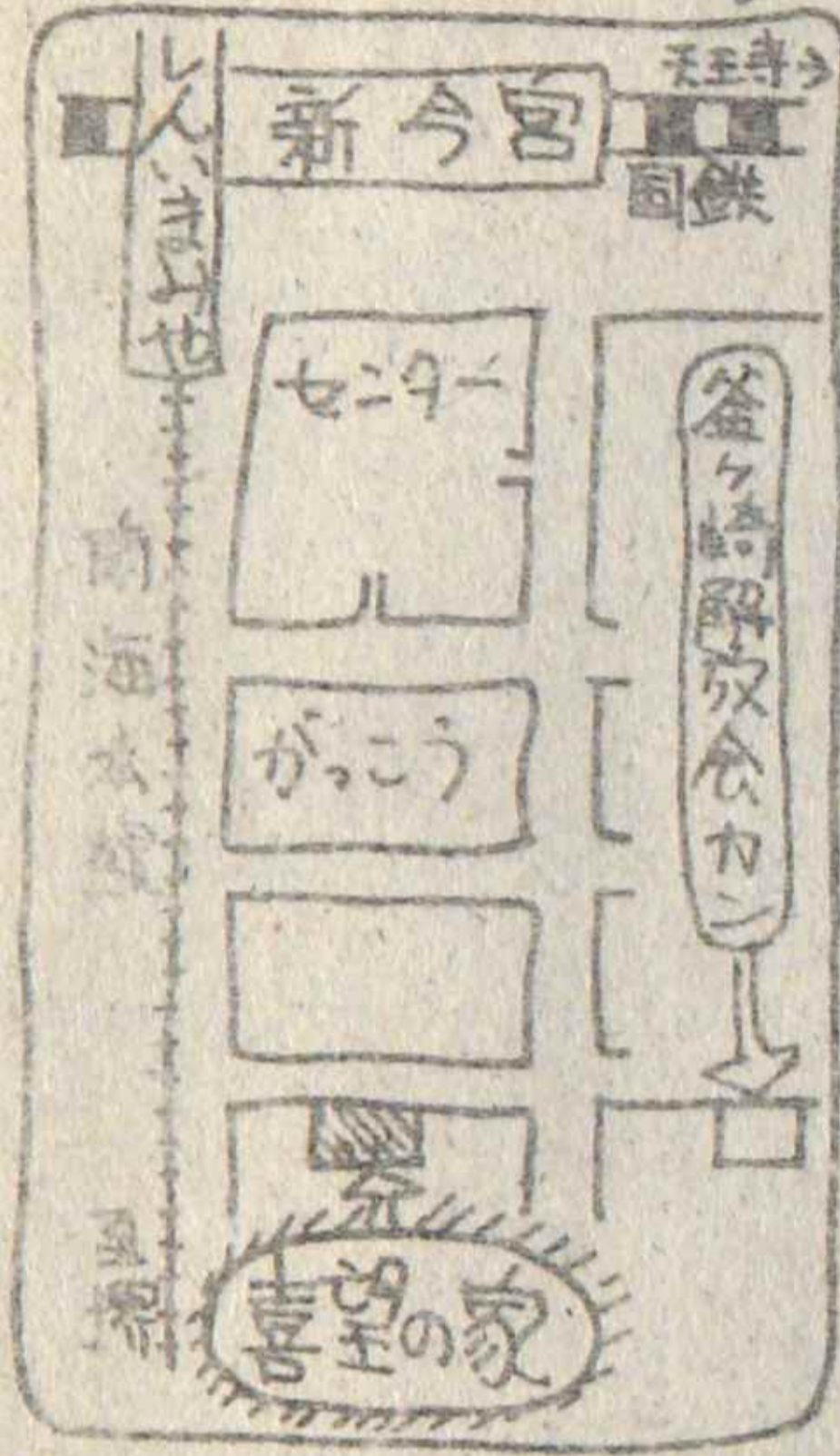
大部分の人はこの状態で気がつかないま

(ウラにつづく)

本日夜7時より、『喜望の家』一階広場にて

第5回『(仮称)釜ヶ崎夜間学校』 → 本日夜ア時より「喜望の家」にて

地図(上が北です)



「喜望の家」への地図
「娯楽室」の外側です。

(電話は毎木曜日の夜七時半から九時の間にのみ)

「(仮称)釜ヶ崎夜間学校」運営委員会(筆)
でんわ 647-3946

1980年8月20日

しどし参加してください。

では、なぜ釜ヶ崎の労働者にだけ発病する人が多いのでしょうか。労働から夜食(いしょく)任(まか)せの全(ぜん)てがからんでいます。結核にかかったことのある人、かかっている人は来て、自分の体験からこの問題をともに考えましょう。結核でない人も遠慮なくしどし参加してください。

(オモテからのつづき)
ま、菌の増殖(ぞくじく)もなく、何(なに)げなくくらししています。一部分の人(ひと) (平均(へいきん)では20人に一人(ひとり)くらい)はその病巣(びょうそう)が次第(しだい)に大きくなり、レントゲン写真(しやしん)でわかるようになります。この状態(じょうたい)を発病(はつびょう)というわけです。

本とコーヒーのあるたまり場

喜望の家「娯楽室」

開いている時間
朝7時~10時
夜5時~9時

「ここは、木だけ飲んで、テレビを見たり、本をよんだり、夢(ゆめ)をしたり、ツレと話をしたり... してもいいみんなの「たまり場」です。欲しい人だけコーヒーを!